

michibiku

IPアドレス制限設定マニュアル

IPアドレス制限の設定

この章では、IPアドレス制限の設定について説明いたします。

【注意】IPアドレス制限の設定前に

IPアドレス制限を設定することにより、michibikuシステムへのアクセスを制御し、セキュアな環境の向上を図ることができます。

一方で、設定を誤ると各ユーザーが本来意図した環境からでもアクセスができなくなり、システムをご使用いただけなくなる恐れがあります。

また、場合によってはアドミンユーザー（管理者ユーザー）様もアクセスができなくなり、設定変更が不可能となってしまう恐れもあります。

こちらの設定を行う場合、**貴社のシステム管理部門とご調整の上、また弊社担当者にもご相談いただいた上で設定を行うよう**、どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

（万が一にシステムがご使用不能となられた場合、復旧作業に実費をいただく場合もございます。）

IPアドレス制限の設定(1/3)

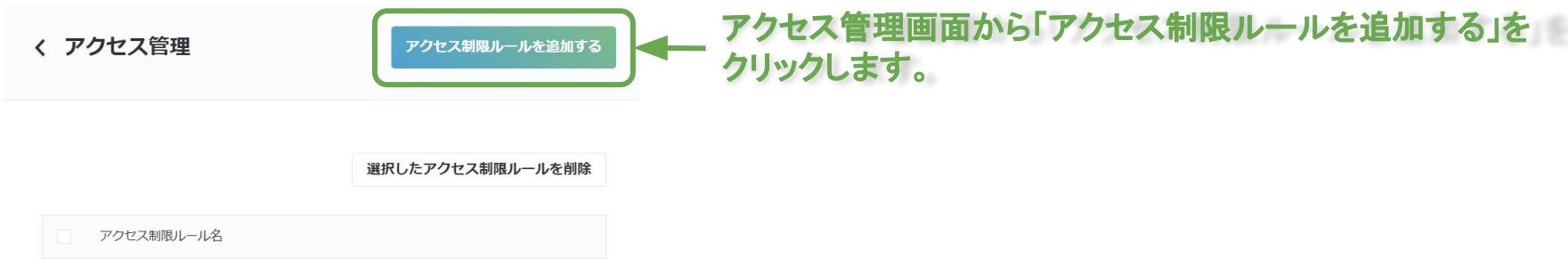
右上設定メニュー「会社・メンバー設定」をクリックし、「IPアドレス管理」を選択下さい。

The diagram illustrates the navigation process:

- Left Panel (Top-level Settings Menu):** Shows a user profile for "管理者 櫻井あすか". The menu options are: アカウント設定, 会社・メンバー設定 (highlighted with a green box), 会議設定, ログアウト, and ユーザーアカウントに切り替え.
- Right Panel (Sub-menu Selection):** Shows the "会社・メンバー設定" screen with five options:
 - 会社情報: 法人名称や住所、登録可能アカウント数等の設定を行います。
 - メンバー管理: 会議に参加するメンバー、事務局となるアドミンの設定を行います。
 - 権限管理: 役職に紐づける権限の設定を行います。
 - 役職管理: メンバーに紐づける役職の設定を行います。
 - ユーザー会議閲覧設定: 確定した会議の閲覧権を非参加ユーザーに与える設定を行います。
- Central Arrow:** Points from the "会社・メンバー設定" option in the left panel to the "IPアドレス管理" option in the right panel, both of which are highlighted with green boxes.

IPアドレス制限の設定(2/3)

「アクセス管理」と書かれた画面が表示されるので、「アクセス制限ルールを追加する」ボタンをクリックします。



IPアドレス制限の設定(3/3)

アクセス制限ルールを追加する画面が表示されるので、必要項目を入力し登録します。

必要項目を入力します。

アクセス制限ルールを追加

ルール名*

アクセスを許可するIPアドレス*

アクセスを許可したいIPアドレスを入力します。（例：198.51.100.217）
することで複数のIPアドレスを指定できます（最大50件）
IPv4/IPv6のCIDR記法に対応しています。

備考

キャンセル 登録

ルール名 : 一覧に表示されるタイトルです。管理のしやすい名称を入力ください。

アクセスを許可する IPアドレス : アクセスを許可するグローバル IPアドレスを入力ください。

各端末に設定されている IPアドレスを設定すると、アクセス不能になります。

備考: 補足情報等があればご記入ください。

「登録」をクリックすると、登録完了です。

* 即座に IPアドレス制限が適用されます。

誤ったIPアドレス設定をしていないか、誰もアクセス出来ない状態にならないよう慎重にご確認ください。

設定したIPアドレス制限の修正

設定したIPアドレス制限を修正したい場合は、アクセス制限ルール名(青色文字)をクリックしてください。[前項](#)の編集画面が表示され、修正いただけます。



設定したIPアドレス制限の削除

設定したIPアドレス制限を削除したい場合は、アクセス制限ルール名（青色文字）の左横にあるチェックボックスで選択肢、削除ボタンをクリックしてください。



(Appendix)
IPアドレスの固定



michibiku

IPアドレスの固定

IPアドレスを固定すると、何度接続しても、同じIPアドレスからの接続となる。

動的IPアドレス



固定IPアドレス



IP制限の必要性

IPアドレスによる制限は、クラウドサービスへの接続時に端末のIPアドレスをチェックし、許可されたIPアドレス以外からのアクセスを遮断します。

この方法を用いることで、社内など、特定の場所からのアクセスに限定できるため、不正アクセスなどを防止することに役立ち、セキュリティ強化に繋がります。

一方で、社内などの特定の場所以外からのアクセスが出来なくなり、「どこからでも利用できる」というメリットが享受できなくなってしまいます。

セキュリティ強化をしながら、「どこからでも利用できる」というメリットも享受するために、IP制限 + 固定IPで対応する方法があります。

固定IPの必要性

固定されたIPを含め、指定したIPアドレスのユーザーのみにアクセスを制限することで、セキュリティ強化をしながら、どこからでも利用が可能となります。

